

第1学年 国語科学習指導路案

教科等	国語科	単元名	これは、なんでしょう	本時	全4時間扱いの2時間目
学級	1年3組	授業者		教室等	1階 1年3組教室

<本時の指導>

<本時のねらい> 問題やヒントにする内容を決めるために、互いの話に関心をもって聞き、共感を示したり、質問したりしながら話をつなぐことができる。	
<p>主な学習活動【4つの視点】</p> <p>主な発問:T 予想される児童の反応:C:</p> <p>1. 本時のめあてを確認する。【発見】 T:今日は、友達と相談しながら、問題を決めたり、ヒントを見付けたりしましょう。 C:問題を決めるのが楽しみです。</p> <p>クイズのもんだいとヒントをきめるそう단을しよう。</p>	<p>○研究主題にせまる6つの手だて</p> <p>□…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p> <p>□前時のクイズ大会のことを思い出させる。</p>
<p>2. 教科書P105を読み、挿絵の対話例やヒント例を参考にしてヒントを考える。【決定】 T:教科書105ページの二人は、考えを出し合って相談するとき、どんな話し合い方をしていますか。 C:「時計はどうか。」と確かめています。 C:「いいね。」と、賛成しています。</p>	<p>○話し合いの話型の提示 話し合いの話型「友達の考えを受け止めよう」、「友達の考えのいいところをつたえよう」を示す。</p> <p>※視覚化</p>
<p>3. 問題とヒントにするものを話し合う。【対話】 T:友達と話し合っ、学校にある身の回りの物から、問題にするものを決めましょう。問題が決まったら、ヒントになりそうなことを、たくさん集めましょう。</p>	<p>○話題設定の工夫 「みんなが知っているけれど、すぐにはわからないもの」に着目させることでクイズとしての楽しさを味わえるようにする。</p> <p>□集めた情報は付箋に書かせ、順序を決める際に並び替えやすくする。 □ヒントの材料となるものは、色・形・大きさ・使い方などの特徴であることを伝える。※共有化</p> <p>☆互に関心をもって聞き質問したり、感想を伝えたりしている。(発言・ワークシート)</p>
<p>4. 話し合いの共有をする。【対話】 T:話し合いをしているときに、よい伝え方や分かりやすい話し方はありましたか。 C:問題の答えになるものを出した時に、いいねと言ってくれたので、気持ちよく話し合いができました。</p>	<p>○交流の目的と視点の明確化 「聞いている人が楽しめるクイズを考えるため」という目的と3つの視点を提示する。(6つの手だてとの関連参照。)</p>
<p>5. 話し合い方に気を付けて、問題とヒントにするものを話し合う。【対話】 T:皆で確認した話し合い方を大切にしながら、もう一度話し合ってみましょう。</p>	
<p>6. 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 T:相談のときに、どんなことをしてもらったときに、気持ちよく話し合えましたか。 C:うなずいてもらったときです。 C:それはいいね。」と言ってもらったときです。 T:今日相談したことを基に、次の時間はヒントを出す順番を決めて、練習しましょう。</p>	<p>□相談したときに、気持ちよく話し合えた点を確かめる。今後の話し合う活動につながるように、児童の言葉を生かしながら、全体で共有する。(頷く、相づちを打つなど。)</p>

【板書計画】

これは、なんでしょう

クイズのもんだいとヒントをきめるそう단을しよう。

きょうふたりでそうだんすること

① 答えとなる「もの」をきめる

② ヒントをかんがえる

ものをきめるとき

- ・がっこうにあるもの
- ・きょうしつにあるもの
- ・みんなが知っているけれど、すぐにわからないもの

ともだちのかんがえをうけとめよう。

うんうん、たしかに、なるほど、そうだね

ともだちのかんがえのいいところをつたえよう。

うっていいね、わたしもしたいな

ヒントのかんがえかた

- ・いろ
- ・かたち
- ・大きさ
- ・つかいみち
- ☆ふりかえり
- ・クイズのもんだいをかんがえることができる
- ・ヒントをそうだんすることができる
- ・どうしてうまくいったのか・・・
- ・うなずいてきてくれたからきめられた
- ・いいねといってくれたからはなしやすかった

ふせんにかく

【研究主題にせまる6つの手だてとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手だて

話題設定の工夫

学校にあるものでクイズを出すという活動を設定する。児童が題材を選びやすいように、身近な学校や教室にあるものに範囲を限定する。また、「みんなが知っているけれど、すぐにはわからないもの」に着目させることで、クイズとしての楽しさを味わえるようにする。さらに、色・形・大きさ・使い方など特徴を捉える視点をあらかじめ提示し、児童が題材のよさを考えながら選べるようにする。

話し合いの話型の提示

話し合いの話型「友達の考えを受け止めよう」、「友達の考えのいいところをつたえよう」を示すことで、交流の際に友達の考えを受け止めたり、友達のいいところを伝えたりする姿につなげていく。

(2) 「学び合う」ための手だて

意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

本単元は合意形成に向けた話し合いが初めてとなる学習である。話し合っ合意形成を行うことに重点が置かれているため、発達段階を考慮し、グループ活動より少人数での活動が最適であるとする。そこで基本的には2人組、「話すこと・聞くこと」に関する児童の実態を考慮して3人組で児童が話し合いを進めやすいように、編成を行う。

交流の目的と視点の明確化

交流活動の際には「聞いている人が楽しめるクイズを考えるため」という目的を提示する。交流の際には「そのものの大事な特徴を捉えられているか」「ヒントを聞いて想像しやすいか」「すぐに答えが分からないよう工夫できているか」という3つの視点をもたせる。またペアの意見を取り入れて自分の考えを修正したり広げたりする姿を大切にする。

活用場面の意図的・計画的な設定

1回目の話し合いから、本時のめあてに沿った場面を見付け、そのよさを共有することで、より具体的なイメージをもって、話し合い活動に臨めるようにする。